

## 【今号のトピックス】

以下のリンクをクリックすると各記事のトップに移動します。

[【「フォーチュン」中国テクノロジー企業トップ 50 発表、大湾区から 3 割の 15 社がランクイン】](#)

[【大湾区イノベーションクラスターのグローバルパフォーマンスが際立つ：「深圳－香港－広州」が初の世界トップに、「マカオ－珠海」が 2 ランク上昇】](#)

[【「天空の都市」への探検－深圳前海における「低空経済」の急速発展】](#)

**【「フォーチュン」中国テクノロジー企業トップ 50 発表、大湾区から 3 割の 15 社がランクイン】**



2025 年 8 月 21 日、「フォーチュン」2025 年中国テクノロジー企業トップ 50 が発表され、大湾区からは 15 社が選出され、ランキングの 3 割を占めました。さらに、トップ 10 内には 4 社がランクインしています。ファーウェイ・インベストメント・ホールディングが首位に輝き、同地域における科学技術イノベーションの協調的発展の強固な実力を示しました。

| ランクインした大湾区企業（計15社） |                                      |     |
|--------------------|--------------------------------------|-----|
| ランキング              | 会社名                                  | 所在地 |
| 1                  | ファーウェイ・インベストメント・ホールディング (Huawei)     | 深圳  |
| 6                  | テンセント科技（深圳） (Tencent)                | 深圳  |
| 7                  | BYD                                  | 深圳  |
| 10                 | DJIイノベーション                           | 深圳  |
| 15                 | 大族レーザー科技産業グループ（Han's Laser）          | 深圳  |
| 17                 | S.F.エクスプレス・テクノロジー                    | 深圳  |
| 19                 | 金発科技 (Kingfa Science and Technology) | 広州  |
| 20                 | 中山康方生物医薬 (Akesobio)                  | 中山  |
| 25                 | 伯恩光学 (BIEL Crystal)                  | 香港  |
| 26                 | デジタルチャイナ・インフォメーション・サービスグループ          | 深圳  |
| 30                 | TCL科技グループ                            | 惠州  |
| 34                 | 欣旺達動力科技 (Sunwoda)                    | 深圳  |
| 38                 | 先導科技グループ (Vital Technology)          | 広州  |
| 39                 | 深圳華大基因科技 (BGI)                       | 深圳  |
| 41                 | 文遠知行 (WeRide)                        | 広州  |

ランキングによると、ファーウェイ（Huawei）、テンセント（Tencent）、BYD、デジタルチャイナ（Digital China）、TCL、Sunwoda の 6 社が継続して選出され、一方、DJI、大族レーザー（Han's Laser）、S.F.エクスプレス（SF Express）、金発科技（Kingfa Science and Technology）、康方医薬（Akesobio）、先導科技（Vital Technology）、華大基因（BGI）、文遠知行（WeRide）の 8 社が新たにランキング入りを果たしました。

都市別分布を見ると、広東省からの選出企業は主に深圳市と広州市に集中しています。深圳市からはファーウェイ、テンセント、DJI など 9 社が選出され、大湾区で最も多くの企業がランキングされた都市となりました。うちファーウェイは 5G 特許とチップ開発でトップを維持し、DJI は民生用ドローン技術で世界のトップを走り続けています。

広州市からは 3 社が選出され、いずれも新規ランクイン企業です。うち金発科技は改質プラスチック分野で深い蓄積とイノベーションを有しており、その子会社である金発生物は、バイオプラスチックの全産業チェーンにわたるコア技術を完全に掌握するアジア唯一のグローバルリーダーとして、大湾区の「科

---

学技術＋産業」融合発展目標に合致しています。このほか、香港、惠州市、中山市からもそれぞれ1社がランクインされました。

業種別に見ると、広東省のランクイン企業は電子通信、スマート製造、インターネット、バイオ医薬、新エネルギー自動車、自動運転など多岐にわたる分野に分布しています。これは、現在広東省が産業と科学技術の相互促進、相互強化を推進し、基幹産業の絶え間ない飛躍と、新興産業・未来産業の力強い発展を実現していることを示しています。

これらの大湾区の科学技術イノベーションの実力の直感的裏付けは、中国の大湾区発展計画戦略の奥深い成果を反映しています。特筆すべきは、深圳－香港－広州が5年連続で世界第2位のテクノロジークラスタを維持していることです。今後、地域科学技術イノベーション連携メカニズムの深化に伴い、これらの企業が核となり大湾区のイノベーションエコシステムを活性化させ、中国の科学技術産業における高品質発展に力強い推進力を注ぎ込むと共に、「中国スマート製造」のクラスタ力と無限の可能性を世界に示すことが期待されます。

【大湾区イノベーションクラスタのグローバルパフォーマンスが際立つ：  
「深圳－香港－広州」が初の世界トップに、「マカオ－珠海」が2ランク上昇】



9月1日、世界知的所有権機関（WIPO）が発表した「2025年グローバル・イノベーション・インデックス」によると、「深圳－香港－広州」イノベーションクラスタが日本の「東京－横浜」を初めて抜き、世界首位のイノベーションクラスタとなりました。また、「マカオ－珠海」イノベーションクラスタは2年連続で世界トップ100入りを果たし、順位は昨年より2ランク上昇しました。

今年のグローバル・イノベーション・インデックス（GII）のクラスタ研究では、ベンチャーキャピタル取引活動が新指標として追加されました。GIIのクラスタランキングは2017年に創設され、3つの核心指標を通じて、世界レベルのイノベーション活動が各地に集中している度合いが測定されます。こちらの3つの指標とは、WIPOの「特許協力条約（PCT）」に基づいて出願された国際特許出願件数、科学研究論文発表件数、そして今年新たに追加されたベンチャーキャピタル取引量を指します。ベンチャーキャピタル投資活動は、科学技術知識がいかんしてスタートアップ企業へと転換され、最終的に市場で新たな製品やサービスとして具現化されるのかを捉えるのに役立ちます。3つの指標は、知的財産の産出と展開を強調すると同時に、イノベーション成果の転化・応用と価値実現をも浮き彫りにしています。

---

GII は毎年、世界各国と経済体のランキングを発表しており、その中でイノベーションクラスタとは、発明家、科学研究者、ベンチャーキャピタル活動が集積し、変革的な創造性をもたらす地域を指します。

「深圳－香港－広州」科技クラスタは、大湾区の 3 つのコア都市が連携して形成された科学技術イノベーション地域クラスタであり、GII の「世界トップ 100 イノベーションクラスタ」ランキングに 6 年連続で選出され、さらに 5 年連続（2020 年～2024 年）で世界第 2 位を維持しています。今年「深圳－香港－広州」科技クラスタは、これまで首位を維持してきた東京－横浜クラスタを抜き、世界一のイノベーションクラスタとなりました。

大湾区のイノベーションマップにおいて、広州－珠海－マカオの科学技術イノベーション回廊は、珠海とマカオの科学技術協力が最も活発な地域へと成長しました。2024 年には「マカオ－珠海」科学技術クラスタが、GII のトップ 100 ランキング内に初めてランクインしました。

今回の GII における最新ランキングは、大湾区が世界的な科学技術イノベーション分野で先導的な地位にあることを示しており、大湾区が世界的な影響力を持つ国際的な科学技術イノベーションセンターの構築において積極的な成果を上げていることを十分に体現しています。

世界のトップ 100 イノベーションクラスタは、33 の世界の経済圏に分布しており、クラスタ数が最も多い国は、中国（24）、アメリカ（22）、ドイツ（7）となっています。



## 【「天空の都市」への探検－深圳前海における「低空経済」の急速発展】



低空経済は、世界的に競争が激化する兆規模の新たな市場となっています。深圳市の前海区は、産業布局、インフラ、技術革新、政策支援など様々な面において、低空経済の新たな拠点として急速に発展しています。

深圳前海管理局は、今後、前海が「香港の特色、国際的な風格、海浜の風情、現代性、未来的感覚」をテーマに、低空経済分野における技術、業態、モデル、制度のイノベーションを加速し、「空域開放、シナリオイノベーション、産業集積、深圳・香港連携」という発展体制を構築し、中国全国の低空経済に向けた「前海モデル」を探求し、新たな生産力の競争において加速を図ると表明しました。

### 前海に集積する低空経済関連企業

#### (1) 豊翼科技（深圳）有限公司（以下「豊翼科技」）

毎日午前 10 時半、豊翼科技のドローンが前海の低空域で頻繁に離着陸し、同市および都市間の配送任務を効率的に遂行している。順豊グループ傘下の企業として、同社はすでに深圳に 168 機のドローンを配置し、383 の運航路線を持ち、1 日平均の飛行便数は 600～700 便に上り、昨年からは医療救急物資輸送な

---

ど多様な任務を担っており、積載量、航続距離、海上横断飛行において中国全国のトップクラスとなっている。

(2) 零重力深圳飛機工業有限公司（以下「零重力」）

零重力は 2021 年に設立された国家ハイテク企業で、新エネルギー航空機の研究開発に専念し、前海蛇口の I-FACTORY（価値工場）に拠点を置いている。深圳初の大型有人 eVTOL（電動垂直離着陸機）製造企業である同社は、「ZG-ONE 鵲飛」（鵲：カササギ）モデルの前海での研究開発、生産を決定し、現在の意向受注数は約 1,500 機に達している。主力の初号機 eVTOL「鵲飛」は、最大 2 人乗りで、5 分間でのバッテリー交換、自動障害物回避、機体全体脱出用パラシュート射出機能を備え、2026 年に型式合格証の取得、2027 年には量産と納品を予定しており、年間約 100 機を生産し、観光、短距離シャトル、緊急救助などの用途を想定している。

(3) 澤芯未来科技有限公司（以下「澤芯」）

澤芯は、前海に中国国内最大規模のドローンテストと競技訓練センターを建設し、技術テスト、飛行訓練、競技運営、研究教育、e スポーツを一体化した「ソフトウェア・ハードウェア開発＋シミュレーター開発＋競技教育」の完全なエコシステム構築を目指している。機体全体の 80～90% 以上のコア部品（フライトコントローラー、電子スピードコントローラー、バッテリーなど）はすべて自社開発で、開発したシミュレーターソフトウェアは海外企業の独占状態であった局面を打破した。

(4) 深圳零零無限科技有限公司（以下「零零科技」）

零零科技は 2015 年に設立され、世界で初めてスマートフォンチップをドローンに応用し「スマート追跡飛行カメラ」という新しいカテゴリーを開拓した企業である。170 件以上の特許を保有し、アルゴリズム、飛行制御などの重要分野で先行し、製品は欧米、日本市場に販売されている。法人の登録住所は深圳市前海深圳香港協力区内にあり、従業員は全世界で 350 名以上、研究開発人員の割合が過半数を占め、累積資金調達額は 1 億米ドルを超える。

---

上記企業以外にも、前海には広東省垂直離着陸機製造イノベーションセンター、科比特航空技術(MMC)、北斗伏羲(iWhere)など低空経済関連の川上、川下各優良企業が集まっており、技術研究開発、機体製造、物流運輸、シナリオ応用、飛行テスト、耐空性サービス、展示、レース大会、操縦士養成など産業チェーン体系が初歩的に構築されています。

## 企業がこぞって前海を選ぶ理由

### (1) 立地優位性

澤芯は、前海の「中国と世界を結ぶハブ」としての地位に注目しています。豊翼科技は、前海を大湾区ドローンの物流ネットワークの重要拠点と位置づけています。また、零重力が深圳への拠点設置を選んだ主な理由は二つあります。第一に、民航中南地区管理局がマルチローター機の耐空性審査で豊富な経験を持ち、第二に、深圳が DJI などのドローン企業を抱え、産業基盤が強固で、市場化とイノベーション能力に優れ、ブランド優位性が顕著であることです。

さらに、前海には科技人材が集積しており、都市、空港、港湾、商業施設、公園、跨海大橋など多様なシーンが備わっており、低空経済に豊富な応用空間を提供しています。

### (2) 政策支援と企業サービス

前海は、賃料減免、人材向け住宅などでの支援に加え、積極的に企業の政府リソースとの連携サポートを提供し、越境飛行、空域管理などの制度的ボトルネックの解決を推進しています。

## 低空経済の未来：深圳・香港融合＋グローバル展開を推進

2024 年の「低空経済元年」以来、深圳は全国初の低空経済法規を制定し、中国初の市レベル低空経済標準化委員会を設立、世界初のスマート融合低空システムを開発するなど、法規、標準、技術、シナリオが連動するエコシステムを



---

構築しました。2024 年末時点で、深圳の低空経済における一定規模以上企業の付加価値額は 213 億 8,000 万人民币元と 26.4%増となっており、2025 年第 1 四半期の付加価値額は 58 億 7,000 万元と 22.3%増となっています。

前海は、現在、宝安区に大鵬湾、低空運営本部基地などの集積地を建設し、南山区に低空パイロット区及びモデルプロジェクトを展開するなど、低空産業全体の展開を進めています。前海は、宝安区、南山区と連携し、企業に対して研究開発、シナリオ、航路、空間など様々な政策支援を提供し、最高で 1 億人民币元以上の支援を行います。

次のステップとして、前海は低空政策の革新と深圳・香港クロスボーダー協力を推進し、チェーンリーダー企業や研究プラットフォームの誘致を図り、飛行制御、通信、航空管制などのコア技術に焦点を当て、金融機関による低空金融商品を開発の開発を奨励し、「出海 e 站通」を利用したワンストップサービスを提供します。同時に、深圳と香港低空飛行政策の連携と空域管理改革を探求し、ドローン物流の越境テストと路線拡大を推進し、より多くの高付加価値シーンをカバーします。

豊翼科技の陳孝輝氏は、同社が深圳及び前海を中心に中山、珠海などへの路線拡充を計画し、蛇口―香港間のドローンの物流試験を推進し、クロスボーダー物流や島嶼部への物資補給、園区内物流などの高付加価値シーンの開拓を行うと示しました。

澤芯の蔡怡澤氏は「弊社は既に 100 名以上の優秀な操縦士を育成しており、競技スポーツだけでなく、警察の警備防犯、映像の空撮、新型文化観光などの応用分野にも人材を送り出しています。市場規模も毎年数十倍の成長を見せており、将来性が期待できます」と語りました。

零零科技の欧陽瀟均氏は、市場の見通しに大きな自信を持っており「従来の空撮ドローン市場はほぼ頭打ち状態だが、スマート追尾撮影分野には巨大な潜在力を秘めています。AI 技術によってカメラがより『能動的』になるにつれ、

将来のユーザー規模は数十万単位から数百万、更には数千万単位に拡大する可能性があります。」と述べました。

【参考資料】

- ・「フォーチュン」中国テクノロジー企業トップ 50 発表、大湾区から 3 割の 15 社がランクイン
- ・大湾区イノベーションクラスターのグローバルパフォーマンスが際立つ：「深圳－香港－広州」が初の世界トップに、「マカオ－珠海」が 2 ランク上昇
- ・「天空の都市」への探検－深圳前海における「低空経済」の急速発展

青葉【WeChat 公式】のフォローをご希望の方は、  
右記の QR コードから登録をよろしくお願いいたします。

(WeChat アプリにて、QR コードをスキャンしてください。)

[大湾区ニュースレター特集ページへのリンク](#)

また「大湾区情報」だけでなく、中国、香港のニュースや最新制度情報も WeChat の公式アカウントに掲載しています。



=====

[最新ニュースページ](#)で過去に発行したニュースレター、及び香港・中国本土最新ニュースをご覧になれます。

ホームページと共に、SNS でも随時情報を発信してまいりますので、是非ともフォロー、いいね！をお願いいたします。



質問等お問合せ先

青葉監査法人・青葉ビジネスコンサルティング・青葉法律事務所  
担当:

香港：新井 茂 <[s.arai@aoba.com.hk](mailto:s.arai@aoba.com.hk)>

広州：Monica Tian/田 倩 <[monica.tian@aoba.com.hk](mailto:monica.tian@aoba.com.hk)>

北京：Susan Zhao/趙 素艷 <[susan.zhao@aoba.com.hk](mailto:susan.zhao@aoba.com.hk)>

=====